

# 経営比較分析表（令和6年度決算）

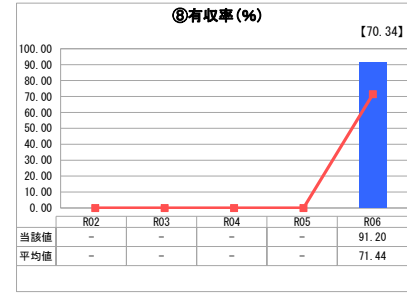
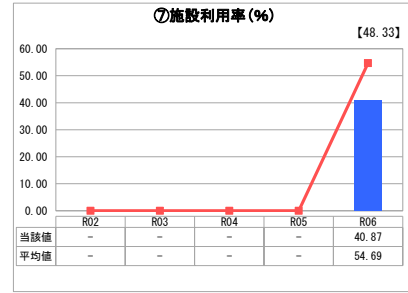
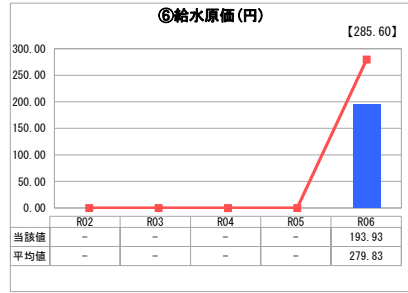
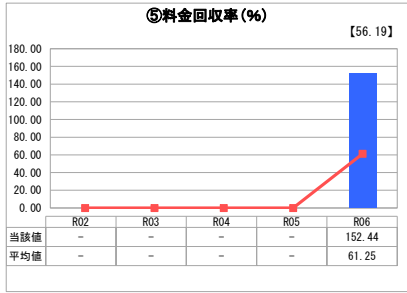
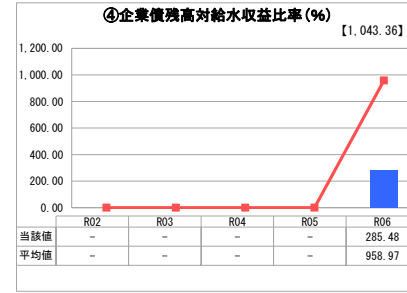
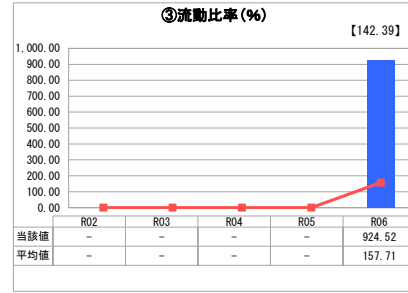
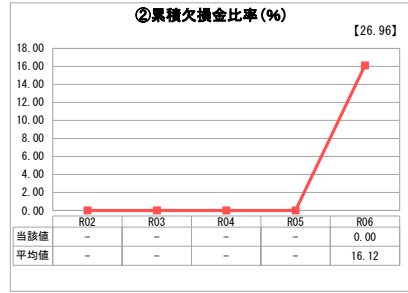
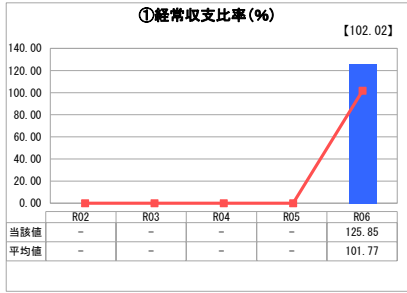
北海道 古平町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	簡易水道事業	C3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家産料金(円)	
-	79.57	97.78	5,660	

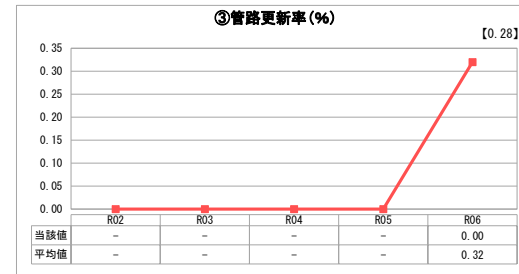
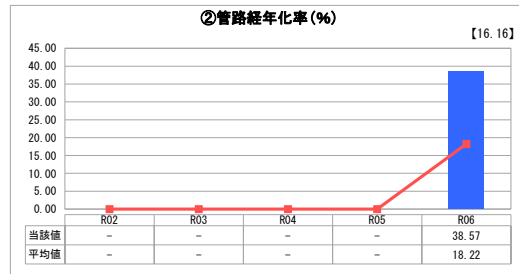
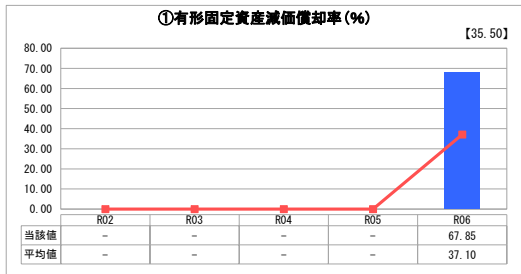
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
2,589	188.36	13.74
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
2,509	9.30	269.78

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和6年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率、流動比率、料金回収率及び有収率は類似団体の平均を上回っております。累積欠損金比率は0%です。給水原価は令和6年度には施設の更新事業を行っていないため、例年に比べ、安価となっております。施設利用率は低ですが、現在のところ経営の健全性は保たれております。一方、耐用年数を過ぎた老朽管及び浄水場等の水道施設全体の更新を計画的に進める必要があります。そのため、令和6年度時点で企業債残高対給水収益比率が低いのですが、今後は上昇していくことが予想されます。更新費用の増大及び料金収益が減少する中、将来の事業経営の健全性を保つため、経費の節減、効果的な事業の経営に努めます。

### 2. 老朽化の状況について

本町の水道は昭和39年に創設。現在の浄水場は昭和51年に完成し、平成18年度から「簡易水道等施設整備費国庫補助事業」として浄水施設の改良及び改修を行いました。また、管路については平成18年～令和元年にかけて計画的に更新を行いました。しかし、耐用年数を超過している施設や管路もまだまだ多くあるため、今後の更新事業を効果的かつ効果的に進めます。

### 全体総括

水需要は、人口減少により減少しておりますが、料金回収率は類似団体の平均と比較して高く、緊急で料金改定等の対策を行う状況ではありません。水道施設については、昭和50年代に整備した施設の老朽化が進んでおり、今後、多くの更新需要が発生する見込です。水道施設更新計画を基本に、機能診断を行い、対象施設の実情を踏まえて、施設の維持管理を実現し、中長期的な更新投資の節減、投資額の平準化を行ってまいります。